

子育てへの理解を深め、楽しみながら夫婦での共育を目指す

「ぎふし共育都市プロジェクト」を始めたきっかけは？

市長 近年、全国的に少子化による人口減少が急速に進んでいる。岐阜市も例外ではなく、平成29年には出生数が戦後初めて3000人を割り込みました。その背景には、晩婚や未婚の増加に加え、結婚後に多くの方が子どもを産み育てたいと思っているにも関わらず、実際には夫婦が思う理想の子ども数を叶えられないという状況があると考えています。

こうした中、私は市長就任以来、「子どもファースト」を市政方針の1つとして掲げ、昨年度に若手職員によるプロジェクトチームを結成。その中で企画立案された「男性の家事・育児参画支援」に着手しました。

難波 私も2年前にサッカー選手を引退するまでは、家庭に関わる時間を多く持つことができていたが、社会で働き始めてから、家族とふれ合う時間の少なさを痛感しました。多くの父親が同じような思いを抱えていると思う。だが、男性の家事・育児参画はどのような現状なのでしょうか。

市長 総務省の調査では、6歳未満の子を持つ家庭での男性の家事・育児時間を見ると、岐阜県は47都道府県中38位と、全国平均を大きく下回っています。昔は、祖父母を含めて家族で子どもを世話したり、近所付き合いの中で子どもを育てる環境がありましたが、社会における女性活躍や核家族の増加、地域関係の希薄化など、社会情勢は大きく変化。その中で男性が家事・育児に参画しなければ、母親が仕事・家事・育児のすべてを1人でこなすことになり、ワンオペ育児や「弧育て」といった言葉も生まれています。

プロジェクトの事業内容は？

市長 このプロジェクトでは、大きく4つの事業を展開しています。1つは、座学や実技を通して、家事・育児に対する理解を深める「ババ大学」。2つ目に、パパと子どもだけで日帰り旅行に出かける機会を提供する「父子旅行（kotoori trip（コトリリップ））」。3つ目が、男性の家事・育児参画に関する情報を発信し、広く意識啓発を図る「岐父新聞」。そして、男性の家事・育児参画や女性の活躍への支援を積極的に行っている企業を「ぎふし共育・女性活躍企業」として認定する制度です。

すでにババ大学の参加者からは、「育児に対する不安が減っ

普段はどのように家事・育児に関わっていますか？

難波 子どもとの時間が短いからこそ、一緒にいる時間は思い切り子どもと遊びます。今は長男もサッカーをしているので、ジャージに着替えて本気で向き合いますね。仕事から帰った際、妻が子どもを寝かしつけている時は、「自分が家事をすること」で妻が育児に専念できるなら、家事も間接的な育児」と捉えて洗濯物を畳んだり食器を片づけたりしています。

市長 私は、毎日のスケジュールに家族の時間を設けて、限られた時間でも意識的に子どもとふれ合うようにしています。一緒に入浴したり、寝る前に本の読み聞かせをするなど、たとえ30分でも上質なコミュニケーションを持つことができます。先日は初めて息子と金華山に登り、岐阜城や石垣について話をするなど、充実したミニ父子旅行ができました。



難波 子どもとふれ合いだけでなく、妻へのケアも大切だと思います。育児と家事は切り離して考えられないものと捉え、夫婦でコミュニケーションを取りながら、妻の負担をできるだけ軽減するの、夫であり父親の重要な役割じゃないでしょうか。

市長 夫婦の役割分担は大切ですね。私は子どもと接する時、父親が子ども扱いしないことが大きな自己肯定感につながると考え、1人の人間として対等に向き合うことを心がけています。こうしたことも、育児における父親ならではの役割だと思っています。

父親の意識改革と並行して、「ぎふし共育・女性活躍企業認定制度」で企業の取り組みを促す意義は？

市長 「積極的に家事や育児をしたい」と考える父親が増えても、職場の理解や環境によって、実際に参画することは困難です。そこで、男性の家事・育児参画や女性の社会進出を推進する企業を認定する制度を設けることで、ワーク・ライフ・バランスをベースにより働きやすい環境づくりを後押ししたいと考えてきました。何から着手していくか分からないという企業には、今回75のチェック項目を設けた「取組確認シート」を用意していますので、こちらを参考に

最後に、現在子育て中の方、これから子どもを持つ方にメッセージを

市長 父親にとっても、育児は初めての経験。何をしたらいいかわからないと不安を抱える方も多いと思います。岐阜市では、今後も家事・育児に関するさまざまな体験や知識習得の場を提供していきますので、ぜひ積極的に参加して、夫婦で楽しみながら育児をしていただくことを願っています。

難波 夫婦での共育を目指すには、夫婦でしっかりとコミュニケーションを取ることが大切。お互いの価値観やそれぞれの役割を共有し、思いやりの気持ちをもって子育てを楽しんでほしいです。まずは、休みの日にめいばい子どもと遊んで、本気で育児に向き合うことから始めてみてください！

ぎふし共育都市プロジェクト

柴橋正直

岐阜市長

スペシャルアンバサダー

難波宏明氏

特別対談

【男性のさらなる育児参画へ】

近年、社会における女性のさらなる活躍が求められるのと同時に、家庭における男性の活躍が期待されています。そんな中、岐阜市は今年度から、家庭で夫婦が共に子育てができる「共育」の環境づくりを目指した「ぎふし共育都市プロジェクト」をスタートしました。今回は、柴橋正直岐阜市長と同プロジェクトのスペシャルアンバサダーを務める難波宏明氏に、この取り組みに対する思いやご自身の子育てについて、話を聞きました。

